

第3回 高千穂中学校建設検討委員会会議録 (要旨)

日 時：令和7年2月10日(月) 午後7時00分 開会

場 所：高千穂町役場 大会議室

出席者：建設検討委員及び移転新築検討委員、町長、副町長、事務局

【委員】出席者14名、欠席者1名

出席者	佐藤則義委員、喜田鉞子委員、甲斐勝朗委員、佐藤さつき委員、磯貝助夫委員、佐藤幸男委員、田上祐樹委員、富高徹雄委員、安在優委員、甲斐烈委員、佐藤尊文委員、安在直委員、金丸智弘委員、榎本英雄委員
出席者 ※	板倉哲男委員、佐藤有美委員、 ※高千穂中学校移転新築検討委員
欠席者	甲斐悠也委員

【事務局】出席者9名 オブザーバー：出席者4名

事務局	教育委員会：戸敷教育長、林次長、佐藤課長補佐、原田国スポ推進係長、田尻主任主事(学校教育係) 総合政策課：甲斐課長補佐、鈴木政策推進係長 建設課：飯干まちづくり推進係長、黒木(建築住宅係)技師
オブザーバー	興梠総務課長、霜見財政課長、湯川総合政策課長、甲斐建設課長

1. 開会 【進行：佐藤課長補佐】

2. 委員長あいさつ

- ・昨年2月に高千穂中学校移転新築検討委員会から答申を受け、8月23日に第1回目の建設検討委員会を開催し、10月24日に第2回目を開催した。第2回は4団体からの要望内容の確認とそれに関する協議であった。その会議での意見をもとに事務局で建設造成費ほか諸々調査をした。その調査を含め、状況報告を本日させて頂く。本日の会議での意見を参考に、事務局で調査や説明資料に反映させ、町民や要望団体へ真摯に対応説明することが委員会の使命と思う。子どもたちに夢のある高千穂中学校を提供することが我々の責任とも思う。積極的に意見頂き、有意義な会議となるよう協力をお願いします。

3. 町長あいさつ

- ・今回、候補地について再調査を行っていること、これまでの経緯説明があり、移転新築検討委員会委員にも参集頂いた。2月26日に高千穂中学校移転新築検討委員会から移転先候補地として旧高千穂温泉跡地が最適であると答申を受け、町としては、旧高千穂温泉跡地で進める考えだった。しかし、その後、4団体からの再検討要望があった。また、これまでの経緯を振り返り、より詳細な調査と町民への説明が必要であったと反省している。町民の皆様に納

得頂くために、数値的な根拠や意見聴取の場を持ち、今後進めていきたいと考える。

- ・高校の空き教室に入ることについては、今年1月10日、県に出向き、県の関係各課長と担当者に調査協力を依頼したところ。現時点でまだ、調査について回答は頂けておらず、回答を得ることは難しいのではと感じている。協力依頼の際に、県からは高千穂町がどのような環境で子どもたちを育てたいのかが一番重要であり、町の教育方針が柱となると意見を頂いた。
- ・町として、教育ビジョンを基本構想・基本計画に明確に盛り込む必要があると考えている。また、要望団体や町民へ具体的な根拠数値を示し、説明させて頂く考え。そのために、再調査をさせて頂きたい。次年度から、中学校は1校になる。子どもたちの教育環境の充実を一番に考えて意見をお願いする。

4. 会議趣旨及び概要説明 【説明：林次長】

- ・昨年2月に高千穂中学校移転新築検討委員会から「移転先候補地として旧高千穂温泉跡地を選定する」と答申を受けて、候補地を「旧高千穂温泉跡地」に決定するとともに、高千穂町自治公民館連絡協議会から、「子どもたちのことを第一に考えて、1日でも早く、旧高千穂温泉跡地に高千穂中学校を建設していただくようお願いする」との要望を頂き、令和6年度から建設予定地の建物解体設計予算など必要な予算を確保し、事業着手に向けて進めてきた。
- ・しかし、中学校建設について町民への丁寧な説明や町民からの意見聴取の機会が不足していた。また、昨年9月26日に町内4団体から「高千穂中学校移転計画に関する要望書」が提出された。
- ・要望書へ回答するための明確な根拠と合意形成を図るための町民への説明が必要と判断した。現在、関係する各課職員で検討会議を行い、説明資料作成や追加調査作業を進めている。本日はその状況報告をさせて頂く。

5. 高千穂中学校建設検討に関する状況説明

(資料1 高千穂中学校建設検討に関するご説明)

(資料2 高千穂中学校建設候補地調査票、令和12年度基準各種教室その他屋内外運動場の一覧表、高千穂町立学校児童数の推移、当初の高千穂中学校移転先候補地比較表)

(1) これまでの経緯と追加調査の理由について 【説明：建設課 飯干まちづくり推進係長】

・資料1に沿って説明。

[経緯]

- ・平成26年から検討開始。理由は、「立地場所が急傾斜特別警戒区域に囲まれ危険」、「施設の老朽化」。
- ・検討時は生徒数の減少が見込まれることから「県立高千穂高校との連携」、「高校既存施設有効活用」、「地元高校への進学機運醸成の効果」、「敷地内併設」を考えた。
- ・県教育委員会、高千穂高校と協議検討。町が思うプラス面よりも問題課題が多かった。管理上の問題、カリキュラム編成など学校教育関係者にしかわからない諸問題、敷地や校

舎問題。高校敷地内への併設計画は達成できないと判断。

- ・令和4年8月に県教育委員会に出向き、町単独での計画検討を伝えた。
- ・高校併設ができなくなり、地域の高校存続のため、高千穂町が中心となり西臼杵郡3町で令和3年2月「高千穂高校魅力向上委員会」を発足している。
- ・令和5年6月に意見聴取会を開き、高校併設は困難問題があり、断念したと説明。
- ・令和5年10月移転新築検討委員会を設置して、5候補地「旧高千穂温泉跡地、高千穂小学校隣接地、総合公園、折原グラウンド、上野小・中学校」について協議検討を開始。
- ・令和6年2月「高千穂中学校移転新築基本構想・基本計画」と候補地「旧高千穂温泉跡地」の答申を受けた。令和6年第1回高千穂町議会定例会で答申を報告し、事業着手に向けて調査業務委託費予算が議決。
- ・令和6年8月高千穂中学校建設検討委員会を設置し協議開始。
- ・令和6年9月町内4団体（観光協会・商工会・建設業協会・山参会）が「旧高千穂温泉跡地への移転計画を再検討」の要望書を提出。
- ・第2回建設検討委員会で要望書の内容を報告説明し意見を求めた。
- ・令和7年1月県へ出向き、高校敷地内併設に関する調査協力を依頼。

[追加調査の理由]

- ・高千穂高校に関連する建設検討について、検証内容や関係機関との協議、町民への説明が不足。
- ・5候補地の比較検討について、調査内容や評価項目、町民公聴会や説明が不足。
- ・「高千穂中学校移転新築基本構想・基本計画」に町教育方針をしっかりと示せていない。

【会議発言内容】

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none">・令和4年8月、県に高校併設はないと伝えた際に、町の教育方針はあったのか。議会でも高校併設はないと説明を受けた。・子どもたちをどう育てるか、町のメリットがあるならば、高校併設は無理だと自信をもってお答え頂きたい。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none">・小学校と一緒に考える。当時は「義務教育学校を目指す」という言葉は言っていないが、小中連携を考えていると話した。
委員	<ul style="list-style-type: none">・令和5年6月の意見聴取会は、町内各種団体役員、学校関係者が出席し、議会は不参加だったが、案内100人に対し、参加者60人ほど。会議録から、この会で教育委員会は「子どもたちをどう育てたいか」説明をしていた。なぜ、その時に各種団体から意見聴取できなかったのか。要望団体も参加していた。なぜ、1年数か月経ち、提出されたのか。何のための公聴会だったのか。

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取会は、候補地検討をするうえで重要な会議であった。 ・候補地検討委員会は、時間や公費を使って開催している。答申もした。 ・要望団体からの要望書を受け取る時には、意見聴取会の内容やこれまでの経緯を話してほしかった。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取会は関係すると思われる団体に声掛けをした。 ・観光協会長からは高校に関する意見が出たので、検討委員会でも説明しているような「町として断念せざる負えない理由」を話した。その後、意見はなかったため理解を頂けたと思っていた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年6月に自治公民館連絡協議会から要望書が提出された。このことを要望団体は知っているのか。 ・答申まで受けた。3年ほど時間を費やしてきた。要望書を受け取る時に、候補地を検討してきた過程について熱意を持ち説明をし、理解を頂くことはされたのか。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・要望団体は承知している。要望書提出時にも伝えた。 ・自治公民館連絡協議会からの要望書は、町内全体の意見と捉えている。 ・要望団体は、多額の費用について再検討すべき、高校に空き教室があると一貫して主張された。 ・教育長からも説明し、1時間以上かけてやり取りがあった。 ・要望内容に対して町は難しいと伝えたが、それを説明する資料が不足していた部分や高校に関して明確に示すことができず、その場合は、要望書への回答はしっかりすると答えて、一旦、受領した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・答申後に要望書を受け取ることが、今後も同様な事例を招くと考えなかったのか。 ・一般町民が中学校建設に関する案を持ってきた。教育委員会にも提出したと聞いた。 ・一つの要望書を受け取ると、誰でも彼でも持ち込みするようになるのでは。答申の重みへの危機感を感じている。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・要望団体から受け取った時点では、要望が続くとの考えに至ってない。
事務局 次長	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会に要望書を持ってこられたので、事務局で共有している。

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年検討した高校との連携の在り方とは？私のイメージは、空き教室の利用、空き校舎を買収・取り壊して中学校建設、グラウンドに建設の 3 パターン。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> 残っている資料から読み取れることは、高校の中にとという具体的な話は一つもない、ということ。連携型一貫校を目指すかどうかの話し合い。 平成 26 年から令和 4 年 8 月まで 7～8 年間、町も県もこの件に触れずに来たことが、本日の資料で分かる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 町は、高校敷地内に入ることにについて検討協議をしていないということか。
事務局 教育長	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に 2 回、県教育委員会、高校、中学校、町教育委員会で会議が開催されたが、「高校敷地内に中学校が入る」ことは協議にはなく、公式な記録がないまま、今もこのような議論となっている。 公式なものはないが、この 10 年間、高校敷地内に入るという話がある。今回、きちんとお答えすべきという流れである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 自治公民館連絡協議会の要望書の取りまとめはどのように行ったのか。
町長	<ul style="list-style-type: none"> 行政の入らないところで合意形成している。 全地区公民館長会と同日で、館長会の前に開催される自治公民館連絡協議会の中で、公連会長が要望書提出について提案説明されたと聞いている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 要望書は 6 地区役員会で協議した。それを町公連の会議で提案した。高校敷地内に入れないことを説明し、納得頂いた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> 建設検討委員会から委員になっている。移転新築検討委員会が出ていなかった疑問などが今協議されていると感じる。 「反対意見を納得させる資料」、「町が二分する意見をどう解決するか」が必要と前回の会議で発言した。 今回、説明資料ができ、追加調査も行われている。説明資料を基に町民へ理解を求めてくしかない。 移転新築の時点で意見聴取会や検討委員会を開き、説明し意見を聞いている。 検討委員会でも委員には意見を積極的に出して頂きたい。

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・移転新築検討委員会の会議録は、56 公民館長の代表の方や公民館長にその都度、教育委員会から送られていた、でよかったか。
事務局 次長	<ul style="list-style-type: none"> ・会議録については、教育委員会から公民館長に直接送ってはいない。検討委員には送っている。町のホームページに掲載している。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・検討委員会委員の公連会長から 6 地区公連役員に会議録が配られたので、当時、押方地区の全館長に配付した。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・公連役員会で会議録の配付があり、地区の館長へ共有をとのことだった。三田井地区でも館長へは配付している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・各自治区の代表である公民館長は、責任をもって説明を聞き、考えがあれば、地区や自分の意見を言うべき立場ではないか。意見がなかったので、行政は進めてきたはず。納得いかない点があったならば、事務局に伝え、説明を聞くことができたのではないか。そのための組織。要望団体の方も公民館組織に加入していると思う。 ・当時の説明が足りていなかった。もっと丁寧な説明を、となっているが、どこまで丁寧な説明をしたらことが進むのか。 ・意見聴取会や検討委員会で意見が出せなかった、納得いかなかったのも後から意見を言う、その意見を全部聞いていたら、どこで線引きをするのか。 ・時間をかけてやってきて、答申まで行ったことが、後から出された意見でやり直すとなれば、答申の意義は何か、これまでの検討委員会は無駄ではないか。 ・会議での決定事項に、会議後、意見しても駄目だというルールで教育を受けてきた。そのルールを守らなければ、高千穂町は決定事項が簡単に覆るようになると不安に思う。 ・今後の丁寧な説明では、組織の代表が検討委員として出席し、説明を受け、その説明を組織に下すという経緯も考えたうえで取り組んで頂きたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年 6 月意見聴取会に参加した時、教育長から管理者やカリキュラムの問題があり、高校併設はないとの説明を受けた。選択肢に高校はないものとしてスタートした。公連では、高校併設はないという考えで要望書を出している。高校敷地内は入れないという、最初からの話を通して丁寧に説明をするしかない。

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意見聴取会参加者は、その時に初めて具体的な中学校移転の話を聞いた。高校併設は無理だと説明を受け、参加者のほとんどが納得したと思う。参加していた要望団体の方も漠然と理解をしたが、月日が経つ中で、色々な人の話を聞く中で、要望書提出に至ったのでは。 ・今回の資料で、町はこれまでの経過を振り返り、足りていないことを整理している。追加調査も行うとある。学校づくりに協力すべきではないか。

(2) 追加調査の内容について【説明：建設課 飯干まちづくり推進係長】

・資料 1、資料 2 に沿って説明。

[基本構想・基本計画]

- ・「高千穂中学校移転新築基本構想・基本計画」に教育ビジョンを追加する。

[調査地：当初の 5 候補地]

- ・調査項目、条件内容、聞き取り調査、追加検証を行う。
敷地等調査：「建設に伴う買収や補償費の算出、敷地造成計画の検討手続き、協議に要する時間算出、既存施設の取り扱い」など。施設計画調査：「校舎体育館・運動場・倉庫・トイレ施設の希望」など。その他：「建設に伴い影響を受ける施設等調査」
- ・追加調査を反映した項目ごとに費用算出し、全体の概算費用を示す。
- ・現時点では、旧高千穂温泉跡地の調査が終了し、全体概算費用は 32 億 1810 万 6 千円。
- ・4 候補地は現在、調査中。結果報告を 3 月末予定。

[調査地：高千穂高校]

- ・高千穂高校敷地内併設に関する調査でも県の協力を得て数値的なデータで示す。
- ・町民の疑問を解消し、町の説明を明確にする。
協議：「町・県教委・高校」、調査：「施設状況、更新計画、施設配置、供用判定」、算出：「改修及び建設費、維持管理、更新に係る総コスト、補償費、賃借料」、確認「併設の条件、合意形成の所要時間」

【会議発言内容】

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高校調査の期限はあるのか。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年 1 月県教育委員会訪問時には、「年度内に回答する」と言われたがその後文書で「現時点では、回答が難しい」と届いた。

発言者	内容
町長	<p>町でどのような施設整備をしたいか、高校に併設するのか、旧高千穂温泉跡地に移転建設するのか、明確に示さないと調査に協力できないという回答である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校について検討するには、施設や土地の賃貸、建設用地の土地利用、校舎1棟ごと賃借、高校校舎の更新計画など、可能性を探るための調査がなかったので、今回お願いした。 ・高千穂町でも、具体的な話をすれば、何十年後かは分からないが、今の高千穂小学校を使わずに、新設された高千穂中学校に児童生徒が通う形を取って、義務教育学校という考えもできるのではないか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問を確信に変えるためには、無制限の期間が必要と感じる回答。回答をいつまで待つのか。 ・早く教育環境を整えるべき。町が子どもたちをどう育てるか、町が明確なビジョンを立てて、当初の計画を通すことが妥当ではないか。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・回答の受け取り様では、県も難しいのかと思われるが、私的な思いで回答することは県教育委員会にも迷惑をかける。再度、話に行く必要があると考える。 ・町がどのような教育環境の中で学ばせたいのかを明確に示す必要がある。今後の施設整備計画にも示す必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の校舎は、昭和36年、39年、44年建築の棟がある。高千穂中学校校舎は昭和52年、特別教室棟は昭和30年後半の建築。県の財産を借りて、一部か全部カリフォルニア中学校が入ったとして、県の高校校舎改築基準の80年まで20年。その時、建替えるとなれば、町が負担するのではと予測する。 ・子どもたちの未来を考えて決断した時の考えを県に回答し、それを要望団体にも説明すると良い。子どもたちのために計画通りに進めることが最善と考える。教育環境を整備し、育てたい未来像があれば、決断の時期が来ている。
町長	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な数値的根拠、基本構想・基本計画に教育ビジョンを盛り込んだうえで、説明をする。調査への回答を県から得られなければ、一部推測になるが、基本的資料を揃える。答申を受けた内容で進んでいくために、反対意見の方に理解頂くために、町民の皆様の共通認識のために基本的説明資料を揃えて進めていきたい。

(3) 今後の進め方について【説明：林次長】

- ・資料1に沿って説明。
- ・2/10 議会及び検討委員会、2/21 要望団体へ状況説明実施。
- ・3月末に中間報告会を予定。議会、検討委員会、地区別町民説明会、全地区公民館長会、要望団体。
- ・4月以降は、全世帯町民アンケートにて意見聴取、改定方針案説明会、要望書への回答、最終改定方針の審議、9月を目途に方針の公表。
- ・中間報告会や改定方針案説明会は、テレビ高千穂や町広報にて報告。

【議発言内容】

発言者	内容
委員	<ul style="list-style-type: none">・アンケート調査の目的と内容を説明頂きたい。・アンケートの結果で今後、計画の変更があるのか。
事務局 まちづくり推進係長	<ul style="list-style-type: none">・アンケート内容は3月中間報告会で説明し、審議頂く。・アンケートの目的は町民の方々の意見を聴取する場がなかったため行う。町の方針を変えるものではない。・今後、行政が事業を計画執行していくうえで、町民の方々の意見聴取は必要な工程と考える。今回の経験を活かし、今後のためにも実施する。・調査対象は、保護者世帯の考えであったが、町全体から意見を聴取した方が良くと庁舎内会議で決定した。
委員	<ul style="list-style-type: none">・「アンケート結果で方針が変更されるならば、これまでの会議は何だったのか、答申も要らなかった、議員も要らない」と、議会で意見が出たので確認した。・広く意見を聴取するためなら理解できる。決定に反映するならば、決定するまでの過程は何だったのかとなる。・パブリックコメントが必要か。アンケートを実施後にパブリックコメントが出るだろうか。「自分の言いたいことが言える」と捉える方や「これによって何か変わる」と思う方がいる。・アンケート実施は、目的についてしっかりとした説明をお願いします。
委員	<ul style="list-style-type: none">・全世帯調査の全世帯とは、公民館加入世帯のことか。住民登録世帯か。・世帯構成が異なるが、1世帯1アンケートか。・世帯主や男性が回答する傾向がある。女性や同居の若い世代が回答できるよう、1世帯すべての人が回答できるよう検討頂きたい。・アンケート結果が反映され、決定事項や町の方針が変わっても良いと考

発言者	内容
委員	える。民主主義では主権は住民。中学校のことを最終決定するのは、住民と思っている。
事務局 まちづくり推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・全世帯とは、住民登録世帯。 ・1世帯1アンケートを想定しているが、事務局で協議し、決定する。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・総概算費用32億とあったが、そのうち、自主財源がどれほどあるのか。自主財源見込みで財源がないとなれば建設できないのでは。 ・当初の建設計画は、危険区域から安全な場所へであったが、今は違うことが加わってきているようだ。子どもたちは、今も危険な場所で、古い校舎で、暑さ寒さに耐えながら勉強している。 ・地震が続き避難経路の見直しは行っているが、もし大地震が起きて、別の場所に学校があれば助かったと後悔しても遅い。 ・予算があれば計画通り進めてほしい。予算がないならば、経費を考えて早急に再検討してほしい。 ・資料1の町民の意見の中で「町中心部から子供たちの姿が見えなくなる」とあった。地域から学校がなくなることは非常に辛いこと。この意見は町中心部の方々の意見であって、町全体の意見ではないと思う。資料に掲載をしない方が良いのではと思う。
事務局 まちづくり推進係長	<ul style="list-style-type: none"> ・財政状況によって、今回の検討で移転建設計画がなくなることはない。 ・建設計画するために検討を行っている。建設計画の理由は、一番に中学校は危険区域であるということ。 ・資料1に掲載の意見については、貴重な意見を頂いた。行政職員としてしっかり考えるところであった。今後、注意していく。

6. まとめ 【説明：林次長】

- ・「町の教育ビジョン」を明確にし、「答申、調査結果」と「検討委員の意見、町民の意見」を踏まえて、高千穂中学校移転新築基本構想・基本計画の改定案を作成していく。改定案については、説明会を開催する。最終的に検討委員会で改定方針を審議頂き、公表する。

7. 閉会

- ・午後9時05分 閉会